

手作りのキーホルダーで旅の安全を祈願



## コスモスに「おもてなしの心」を込めて

「小さな親切」運動のシンボルフラワーは、“コスモス”。「日本列島コスモス作戦」と題し、全国各地でコスモスやヒマワリなど花の植栽活動を展開しています。

愛媛県本部（事務局：伊予銀行）ではこの活動の一環として、学校や団体へ花の種子を提供し、取り組みの様子や開花後の活用状況などを審査・表彰する『コスモス・ヒマワリの花』コンクールを開催しています。

昨年度、同コンクールの「まごころ・かがやき大賞（最優秀賞）」を受賞したのは、宇和島市立成妙なるたえ小学校。同校は長年にわたり清掃活動や花いっぱい活動を続けているほか、校区内に四国八十八カ所霊場・第四十二番札所「仏木寺」があることから、「お接待プロジェクト」を実施するなど、地域貢献に力を注いでいます。

お接待は、四国霊場を巡る参拝者（お遍路さん）に対し、地元の方が飲み物や休憩場所を提供したり、道案内や声掛けをしたりするおもてなし文化のこと。相手を思いやる温かな心遣いとして、今もなお四国に広く受け継がれており、同校の児童も仏木寺の境内でお茶や飴をふるまうなどお接待を続けてきました。



今年2月、愛媛県本部より「まごころ・かがやき大賞」と「小さな親切」実行章を贈呈

昨年さらには、愛媛県本部提供の種子からコスモスを育て、押し花にしたキーホルダーを100個作成。「おみちように（道中お気をつけて）」の言葉を添え、旅の安全を願う気持ちを込めました。

お接待をするにあたり、仏木寺の住職さんから子どもたちに伝えられたのは、「おもてなしの心」。旅人を温かく迎え、心を込めて接することの大切さを教わった子どもたちは、飲み物やキーホルダーを渡ししながら、お遍路さんを一生懸命もてなしていました。中には英語を勉強し、外国からの参拝客との会話を楽しむ児童も。

コスモスの花言葉は“まごころ”。子どもたちのまごころがお遍路さんに届き、心に残る温かな思い出となることを願っています。